

◎心は支配できない

ロシアへの抵抗続く

N&Rアソシエイツ代表

西谷公明

【編注】朝刊メモ（ ）の（ア）、本記、顔、名古屋、政治部、地域報道部、生活報道部、外信部、経済部、社会部、文化部、科学部、海外部注意、川北省吾

ウクライナがロシアの侵略に激しく抵抗し、各地で攻防戦が続いている。ゼレンスキー大統領が「中立化」や「非軍事化」といったロシアの要求をのめば停戦交渉も進むが、簡単に行くとは思えない。その場合は攻撃が続くが、力で心を支配することはできない。「プーチンのロシア」が首都キエフを制圧し、戦争に勝つことになっても、統治に最も大切なものを失うだろう。

プーチン大統領は当初、ウクライナ東部の親口派支配地域に暮らす人々の平穏が脅かされているとして「住民保護」名目で派兵した。そうした説明は口実で、事実上の「占領」が狙いであることが明白になった。

プーチン氏はウクライナを支配下に置き、ロシアにとって無害で安心できる国に戻そうとしている。米国率いる軍事同盟

、北大西洋条約機構（NATO）は敵対勢力だ。親欧米のゼレンスキー政権を倒し、NATO加盟を阻止することが真の目的だった。

私は1990年代にキエフ、2000年代にモスクワに駐在した。ウクライナとロシアには共通点が多い。同じ東スラブ系民族で、言語や文化も近い。ロシア人にとってウクライナは正教文明のルーツを成し、宗教上のアイデンティティーにつながる隣国だ。

政治的にも18世紀以降、ウクライナはロシア帝国の一部であり、20世紀はソ連を構成する共和国だった。1991年のソ連崩壊を受けて独立したが、サプライチェーン（供給網）のつながりもあり、多くの両国民が友愛の情で結ばれていた。

だからテレビ映像で現地の戦況を目にしても、実感が湧かない。モスクワ駐在時、ウクライナ人とロシア人の部下は仲良く仕事し、同じ人生の時を過ごしていた。互いの国に家族や親類、友人が暮らす人も大勢いた。

しかし、2014年を境に状況は変わった。ウクライナ市民が2月、大規模デモで親口政権を倒した「ユーロマイダン革命（尊厳の革命）」の翌月、プーチン氏は南部クリミアを強制的に編入した。親口派支配地域の分離独立運動に介入し、事実上の支援に乗り出した

主権と領土の一体性が侵害され、ロシアへの失望が広がった。国民全体を恨んでいるとは思わないが、今回の侵略で反発は一気に拡大し、ウクライナを支援する動きが国境を越えて広がるだろう。

ユーロマイダン革命の際には、旧ソ連の圧政に苦しめられたバルト3国や東欧から支援者がやって来た。欧州志向の強いウクライナ西部の愛国者はポーランドの反ロシア運動とつながりを持つ。いずれ同じ状況が見えてくるに違いない。

国内的にもロシア離れが加速する。プーチン氏は3年前から、親口派支配地域の住民にロシアのパスポート発給を始めたが、取得したのは2割程度にとどまる。ロシア系住民の大半がウクライナ国民であり続けることを選択した。

キエフに住む私の知人を含め、ウクライナの愛国者たちの反口感情はとても強い。抵抗はこれからも続いていくに違いない。プーチン氏もそのことを理解しているはずだ。どちらの国にとっても、戦いはキエフで終わらない。（談）

X X

にしたに・ともあき

1953年、愛知県生まれ。早稲田大卒。同大学院で国際経済論を学んだ後、長銀総合研究所入り。在ウクライナ日本大使館に専門調査員として出向し、帰国後にトヨタ自

動車へ。2004～09年にロシアトヨタ社長を務めた。退社して18年から現職。著書に「ユーラシア・ダイナミズム」「ロシアトヨタ戦記」など。（了）

【編注】愛知県豊橋市生まれ